

飛騨市学園構想

市内各校の防災に関する取り組み実践集

令和7年



目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

防災教育カリキュラム図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

― 教科ごとの各校の取り組み ―

国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

社会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

総合的な学習・総合的な探究・その他行事など
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

― 高等学校での取り組み ―

吉城高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

飛騨神岡高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

― 保育園・特別支援学校での取り組み ―

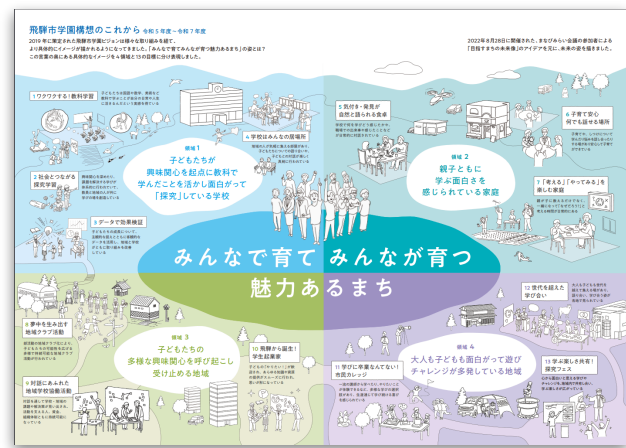
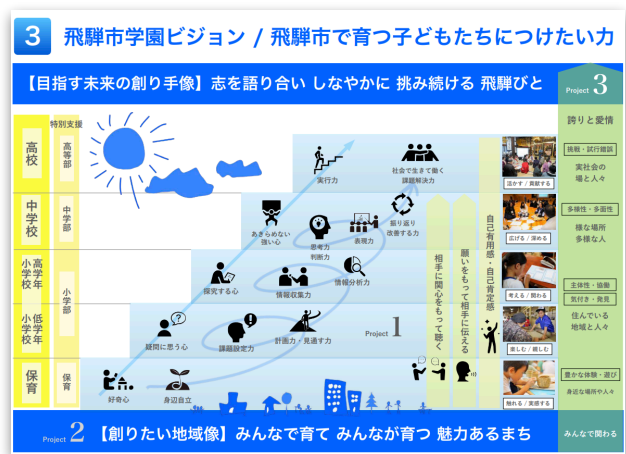
飛騨吉城特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

さくら保育園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

1 飛騨市学園構想とは

飛騨市学園構想は、2020年よりスタートした取組です。第1章（2020年4月～2023年3月）では、飛騨市の教育や人づくりはどこに向かうのか、その行き先や実現の方策について対話を重ねていきました。保小中高特支・家庭・地域の皆さんと共有するために作成されたリーフレットには、構想に至った経緯、飛騨市学園ビジョン、育成したい資質能力、3年間で実施する3つのプロジェクトがまとめられています。

第2章では、変化の激しい社会を前向きに切り拓いていく飛騨びとを育てたい！ そのためには大人も子どももさまざまな出来事を「面白がっている」ことが重要であると考え、2019年から取組を進める中でわかってきた重要なキーワードを基にこれまでの4年の活動や今後実現したい未来像についてまとめました。



2 令和7年度のカリキュラム部会の取り組み

飛騨市学園構想を進める中で、学校現場で指針として活用しやすいものとなるよう、飛騨市学園で育みたい資質能力を具体的なカリキュラムとして整理するため、カリキュラム部会で検討を重ねてきました。令和6年度には、全ての学校共通して取り組んでいる「防災」をテーマに保育園から高校までを通したカリキュラムを作成しました。令和7年度は、その実践状況を踏まえて内容の見直しと改善を行い、より実効性の高いものとして整理しました。

飛騨市学園構想については飛騨市役所ホームページ、または飛騨市学園構想FBページよりご覧ください。



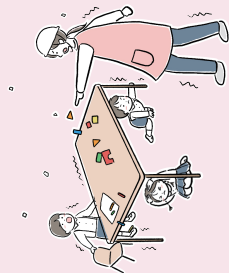
▶ 目指す未来の作り手像 志を語り合いしなやかに挑み続ける飛騨びと

有事

災害が起こった時

保育園・幼稚園

指示に従って動ける



〈地震発生〉

「机の下に隠れて頭を守って」と先生が言うと、子供たちは騒がず指示通り身を隠す。

小学校低学年

指示に従って素早く安全に行動できる

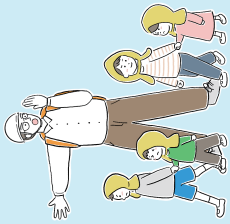


〈大雨特別警報発令〉

大雨特別警報発令に伴う緊急下校。保護者の迎えに備え素早く身支度を整え騒がずに集団で体育館で待機する。

小学校高学年

何が起るかを予測し、自分の身を守る行動を取ることができる(自助)



〈地震発生時〉

休み時間に地震が発生。近くに先生がいなかったが、危険なものから離れ、グラウンドの中央に集まるよう周りの同級生や下級生に声をかけた。

中学校

安全な避難のため自分で判断・行動し、周囲の人のサポートにも関わることができる(共助)

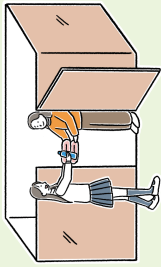


〈近隣エリアに緊急安全確保が発令〉

自宅にて、土砂災害の恐れにより隣接する地区に緊急安全確保が発令。家族と協力し、近隣住民へも声をかけ自他ともの安全確保のための行動をとる。

高校

自分自身だけでなく周りの人の安全のため適切に判断・行動することができる



〈避難所が開設〉

断続的な大雨の中、家族とともに避難所に避難。避難準備が十分でなかった他の避難者に防災備蓄品を配布したり、中長期的な避難生活を見据えブライバシーの守れる個室の整備などを自発的に行う。

平時

普段の生活の時

自分のこと

自分のことを自分でできる

周りのこと

話をしっかり聞ける

防災で目指す姿

生活の中で「危険なこと」がわかる



身辺自立

資質・能力

自分のこと

状況を正しく理解し、よりよい方法を選択し行動できる

周りのこと

周りの人と協力し問題を解決したり改善したりすることができる

防災で目指す姿

自然災害の歴史や発生する仕組みについて理解し発信することができる



課題設定力



情報分析力



表現力

自分のこと

自分の行動に責任を持てる

周りのこと

周囲のため地域のために自分に何ができているかを考え主体的に行動できる

防災で目指す姿

自然災害の発生の仕組みを理解し、防災や減災のための行動できる



実行力



振り返り改善する力



社会で生きて働く課題解決力

具体例

命を守る訓練

国 語

飛騨市教育委員会

第 6 学年 国語科学習指導案

1. 単元名 目的や条件に応じて話し合おう「みんなで楽しく過ごすために」

2. 単元の目標

◎思考に関わる語句の量を増やし、話の中で使うことができる。(知(1)オ)

◎互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
(思A(1)オ)

3. 課題解決的に考える単元指導計画

時間	思考の流れ	学習活動	課題解決ポイント	国語科ポイント
1	課題設定能力 計画力	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが納得できる結論、よりよい結論を出せる話し合いとは？ ・地震の頻度、家屋の倒壊、それに基づく避難所生活について課題意識をもつ ・議題を確かめ、目的や条件を考える。 ・学習計画をたてる 	導入でいかに自分事として課題意識をもてるか <ul style="list-style-type: none"> ・数字からの連想 ・数字からの切実感 ・自分の地域の具体を出す 	R1.6.18(28、1580) R3.2.13(69、19758) R4.3.16(217、52162) R6.1.1(8789、83154) H23.3.11(121996、748461) 30年以内の発生確率東海地震：87% 2011 文科省地震調査
2	情報収集力 情報分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・議題を確かめ、目的と条件を明確にする ・目的と条件に合わせて、自分の考えを整理する。 	資料や情報の取捨選択 ※ある程度、限定しないと広がりすぎて収集がつかない	<話し合いの見通し> <ul style="list-style-type: none"> ・議題、目的、条件 <考えの整理> <ul style="list-style-type: none"> ・主張、理由、根拠
3	計画力	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの仕方を確かめ、進行計画を立てる。 ・話し合いのポイントをつかむ。 		◎目的、条件に沿っているか
4	表現力・思考力・判断力	<ul style="list-style-type: none"> ・進行計画に沿って、ポイントを意識して話し合い、仮の結論を出す。 		<広げる話し合い> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場、主張 ・理由や根拠 ・質問・疑問
		(実際に試す) (話を聞く)	子どもの新たな気づき・本当にこれで見たり考えを再構築したりする思考のきっかけ作り <ul style="list-style-type: none"> ・実際の場へ行ってのイメージ ・動画や写真による問題提起 ・専門家のアドバイス 	<まとめる話し合い> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点、相違点 ・問題点→改善点 ・利点→とりいれる ・組み合わせ、まとめ
5	表現力・思考力・判断力	<ul style="list-style-type: none"> ・試した結果を基に、再び話し合い、最終的な結論を出す。 		
6	振り返り改善する力	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを共有して、感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。 	みんなが納得できる結論、よりよい結論を出せる話し合いをどんな場で生かせるか →日常や総合につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・(知)どんな言葉を使った？ ・(思)広げるまとめるために、どんなことを気を付けた？ ・(主)話し合いで大切なことは？

防災教育を軸とした教科横断的な学習（国語科）指導案

1 単元名 6年生国語 目的や条件に応じて話し合おう
「みんなで楽しく過ごすために」

日時：令和6年 月 日 第 校時
学級：6年 組（6年 組教室）

2 本時のねらい

議題、目的を確認し条件を決めて、話し合いの見通しをもち、主張・理由・根拠をはっきりさせた自分の考えを明確にすることができる。

3 本時の展開（ 2 / 6 ）

過程	学習活動	指導・援助												
導入	<p>1. 前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ。 ○前時の資料（写真等）をもとに決めた議題と目的を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>議題 避難所生活で、小6の自分たちにもできることは何か。 (大人は大人のやるべきことをやっている。それぞれの仕事もある。)</p> <p>目的 避難所でも地域の人が少しでもストレスなく過ごせるよう、自分たちが地域の人の役に立つ。</p> </div> <p>○条件となることは何かを明確にする。 条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地域の避難所（○小学校） ・多くのいろいろな人が避難生活をしている。(自分の地区では…) ・お金がかからないこと・新しいものを使わないこと。(自分も被災している。) ・いつなのか（○月頃） <p>◇（参考）避難所での困ったことランキング</p> <p>2. 自分の考えを話す際の整理の仕方を確認する。 ・主張：目的と条件に合う意見、議題に対する自分の立場。 ・理由：なぜその主張がよいと考えるか。 ・根拠：主張を支える事実や体験など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標と学習計画の中の本時の位置づけを確認する。 ・前時に決めた議題と目的を明確にする。その際、資料で使った写真等を提示することで、より具体的な避難所のイメージをもてるようにしておく。 ・条件を決め出す際は、実際に明日にでも動けることをイメージするために、自分の避難所のイメージを明確にもたせる。 ⇒・避難所ごとのグループ分け ・地域にどんな人がいるのか（高齢者・障がい者・幼児等） ・能登のことと関連させて設定を1月する（冬期の対応）など ・理由や根拠にもつながるように、避難所の困ったことランキング、避難所の課題等を提示する。その際、自分たちの力では何ともできないことが多いことも確認する。 												
	理由と根拠をはっきりさせて、条件に合う自分の主張を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・理由と根拠が混同する人が多いので、言葉の定義をしっかりと押さえる。 												
展開	<p>3. 自分の考えを整理する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="width: 10%;">主張</td> <td>みんなが気持ちよく過ごせるように、トイレや玄関などの掃除をする。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>多くの人が共同で使っているの、汚れるし、衛生環境が大事だと思うから。</td> </tr> <tr> <td>根拠</td> <td>普段の学校生活もみんなでするところをグループで分担してきれいにしている。掃除道具も体育館にある。環境がよくなって、感染症が流行ったということを知ったことがあり、きれいな環境が大事だと思う。</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">主張</td> <td>救援物資の整理整頓や配布の手伝いをする。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>救援物資を調達することはできないが、届いたものの整理や配布の手伝いならできる。</td> </tr> <tr> <td>根拠</td> <td>テレビでたくさんの物資が届いて大変だということを見たことがある。お年寄りや小さい子のいるお母さんもいるので、運ぶこと自体が大変なので、それを配って回ると助かると思う。</td> </tr> </table>	主張	みんなが気持ちよく過ごせるように、トイレや玄関などの掃除をする。	理由	多くの人が共同で使っているの、汚れるし、衛生環境が大事だと思うから。	根拠	普段の学校生活もみんなでするところをグループで分担してきれいにしている。掃除道具も体育館にある。環境がよくなって、感染症が流行ったということを知ったことがあり、きれいな環境が大事だと思う。	主張	救援物資の整理整頓や配布の手伝いをする。	理由	救援物資を調達することはできないが、届いたものの整理や配布の手伝いならできる。	根拠	テレビでたくさんの物資が届いて大変だということを見たことがある。お年寄りや小さい子のいるお母さんもいるので、運ぶこと自体が大変なので、それを配って回ると助かると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・考えをもつ際のヒントとなるような防災に関する本や、ネットの検索も可能な環境にしておく。 ・早く考えをまとめられた人にも、根拠に説得力があるかや、次時の話し合いでの「質問や疑問」を想定して、考えを深められるような、投げかけをする。 ・考える視点は「目的や条件」であることにいつでも立ち戻り、話し合いに入った際の土台とする。
主張	みんなが気持ちよく過ごせるように、トイレや玄関などの掃除をする。													
理由	多くの人が共同で使っているの、汚れるし、衛生環境が大事だと思うから。													
根拠	普段の学校生活もみんなでするところをグループで分担してきれいにしている。掃除道具も体育館にある。環境がよくなって、感染症が流行ったということを知ったことがあり、きれいな環境が大事だと思う。													
主張	救援物資の整理整頓や配布の手伝いをする。													
理由	救援物資を調達することはできないが、届いたものの整理や配布の手伝いならできる。													
根拠	テレビでたくさんの物資が届いて大変だということを見たことがある。お年寄りや小さい子のいるお母さんもいるので、運ぶこと自体が大変なので、それを配って回ると助かると思う。													
終末	<p>4. 根拠となるものは何かを確認する。(事実や体験)</p> <p>5. より説得力が出る根拠や、質問されそうなところを考えて、さらに情報を集め、考えを深める。</p> <p>6. 自分の考えを、ロイロノートで提出する。</p>	<p>理由と根拠をはっきりさせて、条件に合う自分の主張を考えている。</p> <p>思A(1)オ (考えの記述・発言)</p>												

古川小学校 第6学年 国語「みんなで楽しく過ごすために」 実践報告

【単元の導入】

主な活動内容	主な児童の反応	主な活用資料等
<ul style="list-style-type: none"> 日本の大きな災害、飛騨市の過去の災害の資料をもとに話し合う。 今後、予測される地震の確認 避難所生活の様子を、資料をもとに話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> いつ起こるか分からないから怖い あと17年くらいで起きるのがヤバい みんな寒そうにしている 自由にくらせない 楽しくない (飛騨市の過去の写真をみて)「ここは〇〇(地名)か?」「えー!こんなにひどかったの!?ヤバい!」 	<ul style="list-style-type: none"> 全国や飛騨市の過去の災害の写真 過去の災害や今後のデータ 避難所生活の写真
<ul style="list-style-type: none"> 議題の確認 	避難所生活で、小6の自分たちにもできることは何か	
<ul style="list-style-type: none"> 目的の話し合い 避難所生活でどんな様子や思いになってほしいか等 意見を出し、目的の決定 	<p>1組</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心。笑って。元気に。明るく。笑顔。 目的 「避難所の人たちに、安心して明るく笑顔で過ごせるように、自分たちが地域のために役立つ」 <p>2組</p> <ul style="list-style-type: none"> 家にいる気分。ストレスなく。リラックス。安心。落ち着く。元気。笑顔。体調を崩さない。 目的 「避難所のみんなが笑顔で楽しく、快適に過ごせるようする」 <p>3組</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心。笑顔になれる。ほっとする。元気になれる。 目的 「避難所の人たちに、安心して楽しく生活してもらう」 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

※準備、活用したワークシート

※他に主張できる人は、ノートかロイロに「主張」「理由」「根拠」を書こう!

根拠..	理由..	主張..	課題..	条件..	目的..	議題..
質問されそうなことや、それに対する考え、より説得力のある根拠を探したり考えたりしてみよう。				根拠..	理由..	主張..

国語「みんなで楽しく過ごすために」

月 日 年 組 番号 名前()

【展開1】

主な活動内容	主な児童の反応	主な活用資料等
・議題と目的の確認		・ワークシート
・条件の確認	1組 ・古川小学校体育館 ・冬 ・約500人 ・体育館にあるものしか使えない ・大雪での避難 ・仕切りがない ・赤ちゃん～高齢者 ・お金をつかわない	
	2組 ・古川中学校体育館 ・300人ほど ・あるものは、水・食べ物・ペット・お金・鉛筆・懐中電灯 ・物が買えない ・秋	
	3組 ・古川小学校体育館 ・1000人くらい ・高齢者と子どもが多い ・お金をかけられない ・冬 ・大地震のための避難	
・自分の考えを整理 主張、理由、根拠	・個人で考えていたが、途中からは近くの仲間に相談していた。 ・自分事や本当に可能かなどは、まだ考えが浅い。	

【展開2】

主な活動内容	主な児童の反応	主な活用資料等
・前時までの確認	・前時より、自分事や本当にできそうか考えた。 ・話し合いの方法を参考に、仲間に関心かけたり質問をしたりしていた。	・ワークシート
・本時の目的、班で決定案を出すことを確認。		・教科書の動画
・話し合い方、広げ方、まとめ方の確認。その後、話し合い活動。		
・各班の発表（代表者1名）	・各班で話し合っ、できそうな案を1つに絞り、全体で発表、交流。 ・発表を聞いた仲間からは、「〇〇は本当にできるのか?」「道具がないから難しいのでは?」というような意見も出た。	

【展開3】

<ul style="list-style-type: none"> ・決定した案（6班分）を飛騨市防災士会の北平さんへデータで送る。 ・評価やアドバイス等をいただくようお願いをした。 ・後日、データで評価やアドバイス、参考資料等をいただいた。

【 授業を通して 】

- 飛騨市のことや東海地震の危険性を示したことで、自分事ととらえ危機感をもてる児童が増えた。
- 「6年生」という視点で、特に、班での話し合いになるとよく考えていた。
- 自分たちの考えを専門家に見ていただき、意見をいただけたのがよかった。新しい視点も提示していただけて、児童の学びが広がった。
- ▲「本当にできるのか」という視点は弱く、もう少し、防災士の方から厳しく指摘してもらってもよかった。
- ▲仮決定から本決定への交流が、思っていたより意見が出にくく、改善の余地あり。
- ▲条件など、自分たちで考える時間をもう少し確保してもよかった。
- ▲可能であれば、実際の体験談などを直接話してもらう機会があると、より現実味を感じられ、いざというときに備えられるのではないかと。

古川西小学校における防災教育を軸とした教科横断的な学習の実践(国語科)

1, 単元名 6年生国語 目的や条件に応じて話し合おう

「みんなで楽しく過ごすために」

2, 単元のねらい

議題、目的を確認し条件を決めて、話し合いの見通しをもち、

主張・理由・根拠をはっきりさせた自分の考えを明確にすることができる。

3, 本単元の展開と児童の様子

日時：令和7年10月
学級：6年1組 6年2組

時間	学習活動	児童の反応や様子・板書・資料等																																																																																										
1	<p>【課題設定】</p> <p>○みんなが納得できる結論、よりよい結論を出せる話し合いとは何かを考える学習であることを確認する。</p> <p>○資料を提示し、避難所生活について課題意識をもつ。</p> <p>○議題を確かめ、目的や条件を考える。</p> <p>○学習計画を立てる。</p>	<p>R6.1.1 241人 1299人 8789棟 83154棟</p> <p>何の数字だろう？ 能登の地震の行方不明者数かな？</p>																																																																																										
2	<p>【情報収集・情報分析】</p> <p>○議題を確かめ、目的と条件を明確にする。</p> <p>○目的と条件に合わせて、自分の考えを整理する。</p> <p>目的 避難所でも地域の人が少しでもストレスなく過ごせるよう、自分たちが地域の人の役に立つ。</p> <p>条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所→古川西小の体育館 ・いろいろな人が集まっている。 ・お金、新しいもの→× ・1月(冬) 	<p>東海地震30年以内の発生確率</p> <p>87%</p> <p>2011 文部科学省地震調査</p> <p>絶対地震起きるじゃん！ 発生は高い確率だ！ひとごとではない。</p>																																																																																										
3	<p>【計画】</p> <p>○話し合いの仕方を確かめ、進行計画を立てる。</p> <p>○話し合いのポイントをつかむ。</p>	<p>実際に体育館で寝てみると、避難所での一人分のスペースは意外とせまい</p>																																																																																										
4	<p>【表現・思考・判断】</p> <p>○進行計画に沿って、ポイントを意識して話し合い、仮の結論を出す。</p> <table border="1"> <tr> <td>主張</td> <td>体育で使うマットを使って、ベッドを作る。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>冬の体育館は寒く、ベッドがあると少しでも温かくなると思うから</td> </tr> <tr> <td>根拠</td> <td>実際に寝てみると、寒さを感じる感覚が違う。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>主張</td> <td>ストレスを発散するために、遊ぶ企画をする。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>避難所生活は、ストレスがたまってしまうので、発散する場があるといいと思ったから。</td> </tr> <tr> <td>根拠</td> <td>避難所には、小さな子どもがいる。自分達も生活している。子どもは走り回りたい。お母さんたちも子どもをずっと見ていると大変だ。</td> </tr> </table>	主張	体育で使うマットを使って、ベッドを作る。	理由	冬の体育館は寒く、ベッドがあると少しでも温かくなると思うから	根拠	実際に寝てみると、寒さを感じる感覚が違う。	主張	ストレスを発散するために、遊ぶ企画をする。	理由	避難所生活は、ストレスがたまってしまうので、発散する場があるといいと思ったから。	根拠	避難所には、小さな子どもがいる。自分達も生活している。子どもは走り回りたい。お母さんたちも子どもをずっと見ていると大変だ。	<p>目的や条件に応じて話し合おう</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>名話</th> <th>ひなた</th> <th>りっか</th> <th>いぶき</th> <th>しんのすけ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共通点</td> <td>体育館</td> <td>体育館</td> <td>体育館</td> <td>体育館(グラウンド)</td> <td>体育館</td> </tr> <tr> <td>保てるか</td> <td>ソファーを作る</td> <td>ベットを作る</td> <td>みんなで遊ぶ</td> <td>保護室のベットを使う</td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>跳び箱</td> <td>マット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>条件に合っているか</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>誰の意見にするのか</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>第二結果</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>たくさん作れない</td> <td>たくさん作れる</td> <td>たのしい</td> <td></td> <td>数が少ない</td> </tr> </tbody> </table>		名話	ひなた	りっか	いぶき	しんのすけ	共通点	体育館	体育館	体育館	体育館(グラウンド)	体育館	保てるか	ソファーを作る	ベットを作る	みんなで遊ぶ	保護室のベットを使う		材料	跳び箱	マット				条件に合っているか	○	○	○	○	○	誰の意見にするのか	0	0	0	0	0		0	1	1	1	0		0	1	1	1	0		0	0	0	0	0	結果	0	2	2	2	0	第二結果	0	1	0	0	0	その他							たくさん作れない	たくさん作れる	たのしい		数が少ない
主張	体育で使うマットを使って、ベッドを作る。																																																																																											
理由	冬の体育館は寒く、ベッドがあると少しでも温かくなると思うから																																																																																											
根拠	実際に寝てみると、寒さを感じる感覚が違う。																																																																																											
主張	ストレスを発散するために、遊ぶ企画をする。																																																																																											
理由	避難所生活は、ストレスがたまってしまうので、発散する場があるといいと思ったから。																																																																																											
根拠	避難所には、小さな子どもがいる。自分達も生活している。子どもは走り回りたい。お母さんたちも子どもをずっと見ていると大変だ。																																																																																											
	名話	ひなた	りっか	いぶき	しんのすけ																																																																																							
共通点	体育館	体育館	体育館	体育館(グラウンド)	体育館																																																																																							
保てるか	ソファーを作る	ベットを作る	みんなで遊ぶ	保護室のベットを使う																																																																																								
材料	跳び箱	マット																																																																																										
条件に合っているか	○	○	○	○	○																																																																																							
誰の意見にするのか	0	0	0	0	0																																																																																							
	0	1	1	1	0																																																																																							
	0	1	1	1	0																																																																																							
	0	0	0	0	0																																																																																							
結果	0	2	2	2	0																																																																																							
第二結果	0	1	0	0	0																																																																																							
その他																																																																																												
	たくさん作れない	たくさん作れる	たのしい		数が少ない																																																																																							
5	<p>【表現・思考・判断】</p> <p>二回目はグループで再び話し合い、最終的な結論を出す。主張で共通している部分はないかを比較し、よりよい主張にならないかを考える。</p>	<p>【児童の感想】</p> <p>話し合いをするための、理由と根拠の違いが難しかったが、実際に体育館に行ってみることで、根拠となる事実を体験できた。</p> <p>話し合いで、他の人の主張を聴いて、よりよい方法をまとめていく話し合いが難しかったが、楽しかった。</p>																																																																																										
6	<p>【振り返り】</p> <p>○話し合ったことを共有して、感想を伝えあう。</p> <p>○学習を振り返る。</p>																																																																																											

時	学習活動	授業・児童の様子			
1	課題をつかむ。(総合的な学習の時間)	総合的な学習の時間に、過去の河合町や飛騨市で起きた災害について、自分が調べた資料をふり返り、「災害が起きたら、普段の生活ができなくなる」「避難生活は大変そう」「自分たちも地域の役に立たなければならない」という意識が高まった。			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・議題を確かめ、目的と条件を明確にする。 ・自分の考えを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな条件が必要か、学校が避難所になった設定で考えた。児童の質問から、条件を加えたり、削除したりしながら、条件を決めた。 ・避難生活を想像したり、インターネットで「災害時に困ったこと」などの言葉で検索したりして、地域の人「ストレスを減らす」ために、自分たちは何が出来るかについて考えた。遊びや体操といった意見が多かった。 <p>(意見の例)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>(主張) 小さい子のために読み聞かせ</p> <p>(理由) ・小さい子が落ち着く。 ・静かになるので、騒がしいのが苦手な人も過ごしやすい。</p> <p>(根拠) 自分も本を読んだり聞いたりしたら、落ち着く</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>(主張) みんなで体操をする</p> <p>(理由) ・体を動かすことで、体力が落ちることを防ぐ。 ・気分が落ち着く。 ストレス発散につながる。</p> <p>(根拠) 自分もストレスがたまっていた時に、運動をすると、気分がすっきりする</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>(主張) ペットボトルボーリング</p> <p>(理由) ・小さい子から高齢者、足の不自由な人も、誰でもできる。 ・チームを作ってやったら仲良くなれる。 ・避難所でゴミとなるペットボトルを使う。</p> <p>(根拠) ルールも簡単で、2歳の弟も楽しくできた</p> </td> </tr> </table>	<p>(主張) 小さい子のために読み聞かせ</p> <p>(理由) ・小さい子が落ち着く。 ・静かになるので、騒がしいのが苦手な人も過ごしやすい。</p> <p>(根拠) 自分も本を読んだり聞いたりしたら、落ち着く</p>	<p>(主張) みんなで体操をする</p> <p>(理由) ・体を動かすことで、体力が落ちることを防ぐ。 ・気分が落ち着く。 ストレス発散につながる。</p> <p>(根拠) 自分もストレスがたまっていた時に、運動をすると、気分がすっきりする</p>	<p>(主張) ペットボトルボーリング</p> <p>(理由) ・小さい子から高齢者、足の不自由な人も、誰でもできる。 ・チームを作ってやったら仲良くなれる。 ・避難所でゴミとなるペットボトルを使う。</p> <p>(根拠) ルールも簡単で、2歳の弟も楽しくできた</p>
<p>(主張) 小さい子のために読み聞かせ</p> <p>(理由) ・小さい子が落ち着く。 ・静かになるので、騒がしいのが苦手な人も過ごしやすい。</p> <p>(根拠) 自分も本を読んだり聞いたりしたら、落ち着く</p>	<p>(主張) みんなで体操をする</p> <p>(理由) ・体を動かすことで、体力が落ちることを防ぐ。 ・気分が落ち着く。 ストレス発散につながる。</p> <p>(根拠) 自分もストレスがたまっていた時に、運動をすると、気分がすっきりする</p>	<p>(主張) ペットボトルボーリング</p> <p>(理由) ・小さい子から高齢者、足の不自由な人も、誰でもできる。 ・チームを作ってやったら仲良くなれる。 ・避難所でゴミとなるペットボトルを使う。</p> <p>(根拠) ルールも簡単で、2歳の弟も楽しくできた</p>			
3	話し合いのポイントをつかむ。	教科書の動画とシナリオを利用して、良いと思うところを見つけ、司会の進め方や広げる話し合い、まとめる話し合いの仕方、意見発表の仕方を学習した。			
4	進行計画に沿って、ポイントを意識して話し合い、仮の結論を出す。	宮川小と WEB で意見交流した。自分の意見を言った後、質問したりそれに答えたりして、意見交換をした。避難所にはいろいろな人がいるという意識が高く、いかにして、「みんな」ができるかという点で考えていた。→「ラジオ体操をする」という結論になった。 ・目的や条件に合っているかを考慮しながら、質問することができた。 ・いくつかの意見を繋げて、新しい意見を出したり、相手の意見のいいところや納得した理由を話したりすることができた。			
	実際に試す。(体育)	ラジオ体操をやるシミュレーションをしたところ、音楽なしでは、お手本のラジオ体操をやることができなかった。結果、自分たちはあまりよく知らないのでは？という意見になった。			
5	試した結果を基に、再び話し合い、最終的な結論を出す。	ラジオ体操はできないけれど、準備運動ならできる。でも、準備運動だけでは、つまらないね・・・という意見から、初めの話し合いでたくさん出た「遊び」もいれて、朝は体操、昼は遊びのイベントを開くという結論になった。			
6	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。 	<p>(感想)・みんなの意見を聞いたうえで、まとめた意見や共通点などをみつけて発表できるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が納得する事実、根拠を入れて話すと、説得力がある。 ・話し合いでは、「何のために」という目的に合わせて意見を言うと、みんなが納得できる結論になることが分かった。 			

令和7年度 防災に関する授業

宮川小学校

6年生国語

1 単元名 目的や条件に応じて話し合おう 「みんなで楽しく過ごすために」

2 本時のねらい

議題、目的を確認し条件を決めて、話し合いの見通しをもち、主張・理由・根拠をはっきりさせた自分の考えを明確にすることができる。

3 学習の様子

河合小学校(6年生 5名)と宮川小学校(6年生 1名)とのオンラインによる議論

【根拠】

災害時の症状・訴え(岩手県精神保健福祉センター資料より)

- ・睡眠障害 ・不安・恐怖感
- ・身体不定愁訴 ・イライラ感
- ・気分の落ち込み

【主張】

みんなで楽しめるレクをする。

【理由】

災害の時は、ストレスがたまりやすい。みんなでレクをして楽しめば、ストレスを減らすことができる。

- ①一人ずつ意見を出し合う。(各自の理由・根拠を述べる。)
- ②たがいに質問し合い、疑問点などを明らかにする。
- ③出た意見を整理する。
- ④目的と条件に照らして話し合い、仮の結論を出す。



4 成果

- ・考えを広げる話し合いをすることができた。互いに歩み寄れる点はどこか(考えの共通点)を考え、河合小の児童が折衷案を提案してくれたことによって、本校の児童も納得して、仮の結論を出すことができた。
- ・児童の感想に「避難所の写真を見ると、最初は仕切りがなくてプライベートな場所がなかったです。それに避難所が汚くなると思うので、掃除などもしていくといいな、と思いました。もし今度の話し合いがあったら、掃除や地域の人のお手伝いなども考えたいです。」とあった。昨年行った防災キャンプでの体験を想起する等、これまでの防災教育で培った知識や考え方が定着していることがうかがえた。
- ・他校とのオンライン交流のお陰で様々な考え方に触れることができ、そこから自分の考えを吟味することができた。

防災教育を軸とした教科横断的な学習(国語)実践報告

神岡小学校

1 単元名

6年生国語(7時間) 「みんなで楽しく過ごすために」

2 単元指導計画

時間	学習活動	時間	学習活動
1	・災害についてインプットする。 ・避難所生活について課題意識をもつ。	5	・グループでプレゼンを作る。
2	・議題を確かめる。 ・目的と条件を明確にする。	6	・防災士さんからアドバイスをもらう。 ・防災士さんから学んだこと、家族に伝えたいことを交流する。
3	・話し合いの仕方を確かめる。 ・自分の意見を明確にする。	7	・学年で交流、まとめ。
4	・グループでの結論を出す。		

3 議題、目的、条件

議題「避難所生活で、小6の自分たちにできることはなにか。」

目的・みんなが安心して気持ちよく過ごす。
・少しでも楽しく過ごす。

条件・神岡小学校や中学校など多くの方が避難している。
・大人は仕事などで忙しい。
・お金がなく、新しいものは使えない。

4 学習の様子

(1) 自分の意見をもつ

子どもたちは、避難所で生活した経験がないため、イメージが沸かなかった。そこで、動画を視聴したり、インターネットで検索したりしながら、避難所生活で自分たちができるとの主張や理由、根拠を明確にしていった。

(2) グループで結論を出す

グループごとにどの活動がよいかを話し合った。その時に、付箋を活用し①主張②具体例(実際にやること)③良い点を書いて、分類しながら行った。お互いに質問したり、つなげたりしながら意見をまとめた。

(3) 防災士との意見交流会

子どもたちが出した結論を、防災士の方に提案しアドバイスをいただく活動を通して、子どもたちの新たな気づきや本当にこれでよいのかなど、多面的に考えることを目的に、防災士(2名)と意見交流をする場を設けた。また、意見交流の際には、「子どもたちからの提案に対して、「それぞれの立場の視点」からアドバイス(できること、できないことなど)をお願いした。その後、グループごとに、①分かったこと②避難所でできること③家族に伝えたいことをグループで交流した。



5 授業を終えて

できることは結構あるんだということが分かった。しっかり動けるようになりたい。

避難所は自分たちで運営することを初めて知った。家族にも伝えたい。

何かを手伝うだけではなく、人との関わりが大切だということが分かった。

子どもたちの感想からも、今回の授業を通して学びを多く得られたようだ。特に防災士との交流会では、専門的な意見や現場経験からのアドバイスがより効果的だった。また、「家族に伝えたいこと」を考えることで自分たちの生活にもつながり、防災教育を学ぶよい機会となった。



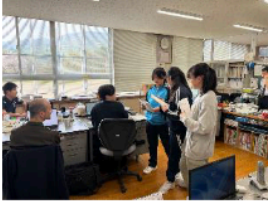
防災教育を軸とした教科横断的な学習（国語科）

1 単元名 5年生国語 たがいの立場を明確にして、話し合おう
「よりよい学校生活のために」

2 単元のねらい

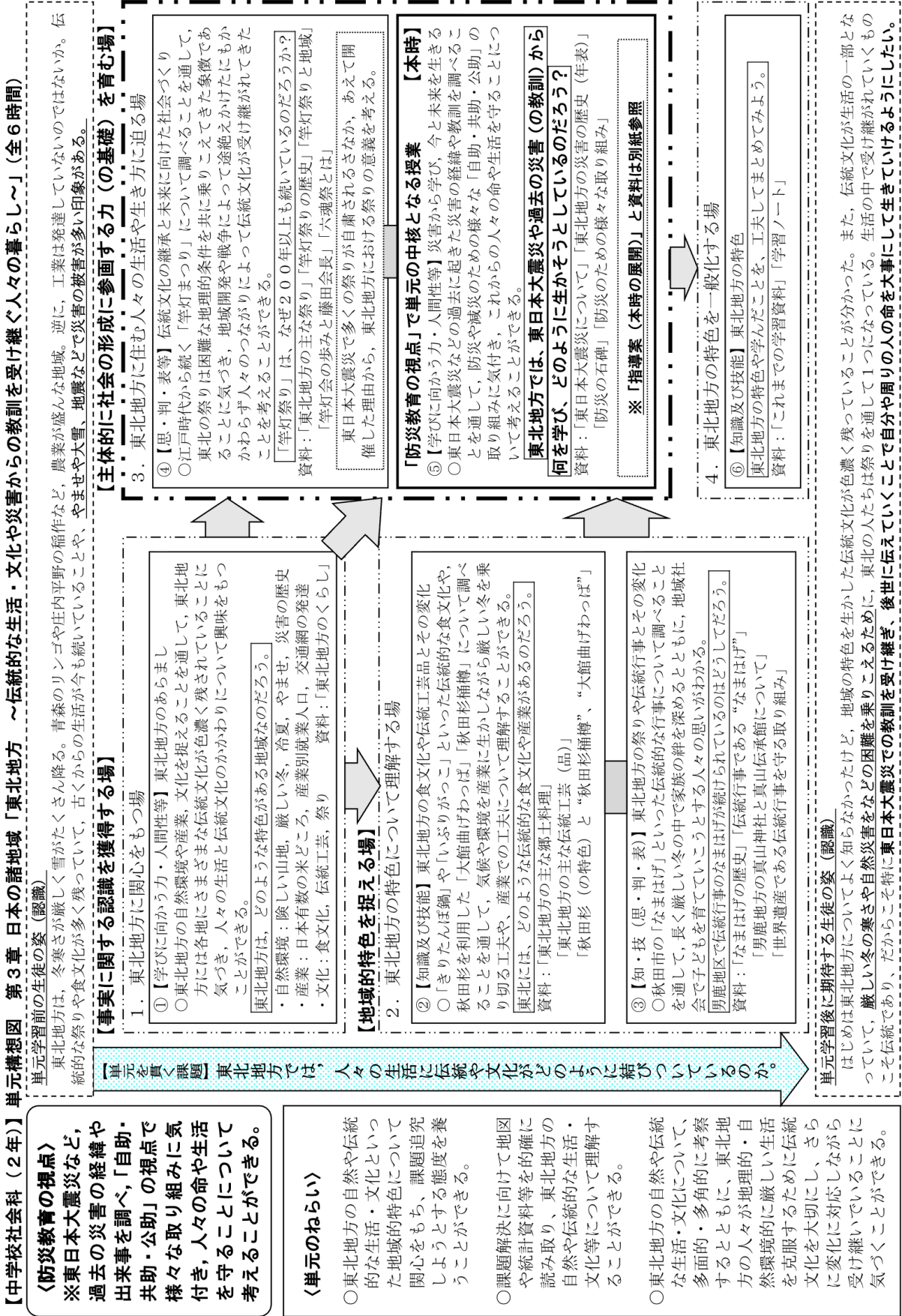
互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合う活動を通して、相手との考えの違いを理解し、考えを広げたりまとめたりすることができる。

3 単元の指導について

<p>第1時</p>	<p>○ 地震による被害の写真等の資料から議題を決める。 議題「避難所生活で私たちができることは何か」</p>
<p>第2時</p>	<p>○ 議題に沿って自分の意見を明確にする。 ・ 避難所の様子を表した写真やイラストを見ながら、「現状と問題点」を挙げ、それに対する自分の考え（「どのようなことをしたらよいか」、「理由・根拠」）を明確にする。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所にお年寄りの方が大勢いる。 <p>【どのようなことをしたらよいか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 力仕事を交代できるとよい。 <p>【理由・根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしたらよいか分からなくて困っていると思うから。 </div> </div>
<p>第3時</p>	<p>○ 話し合いの仕方を確かめ、進行計画を立てる。 ・ 話し合いを進めるための役割分担を決める。「考えを広げる話し合い」、「考えをまとめる話し合い」をポイントにして、進め方について計画する。</p>
<p>第4時</p>	<p>○ 計画に沿って、話し合いをする。考えをまとめるために、ロイロノートを使ってそれぞれの意見を整理する。 ○ 話し合った内容について、職員にも意見交流をする。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 避難所に耳が聞こえづらい人がいる。 ・ 周りの音が聞こえなくて状況が分からなくて不安に感じていると思う。 ・ 会話することで元気づけられると思う。 ○ 避難所には高齢者の方もいる。 ・ そばにいて、話を聞いてあげたり、してほしいことを伺ってみたりするとよいと思う。 ・ 自分たちが中心となってできることを探せるとよい。 ○ 幼い子どもがいる。 ・ 環境が変わって知らない場所では落ち着けず、心細いかもしれないから、一緒に遊んであげるとよい。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>地域には、お年寄りの方も多いため、寄り添ってあげたり自分たちは自分たちにできることを考え、率先して行動したりできるとよいと感じた。</p> </div>

4 成果

7月に実施した防災教室（避難所設営訓練）を想起することで、「自分に何ができるか」を具体的なイメージをもって考えることができた。授業の終末で、話し合いを通してまとめた考えを職員とも意見交流をすることを通して、児童とともに職員の「防災」についての意識が高めることができた。



防災教育を軸とした教科横断的な学習（社会科）指導案 【令和7年度版】

1 単元名 2年生社会科（地理分野）東北地方
「過去の継承と未来に向けた社会づくり」

日時：令和7年 月 日 第 校時
学級：2年 組（2年 組教室）

2 本時のねらい

東日本大震災などの過去に起きた災害の経緯や取組を調べることを通して、人々が防災や減災のために様々な「自助・共助・公助」に取り組むとともに、過去の経験や教訓を生かそうとしていることに気づき、人々の命や生活を守るために自分たちは何をしていけばよいか考えることができる。

3 本時の展開（5/6）

段階	学 習 活 動	研究内容との関わり
見 通 す つ か む	<p>1. 「東日本大震災後の石碑」を巡る過去の出来事や取組について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1933年の地震の後に建てられた石碑は、後世の人のために作られている。 ・石碑の設置や住居の移築をして、被害の再発をしないように取り組んでいる。 <p>東北地方では、東日本大震災や過去の災害の経験(教訓)をもとに、何を学び、どのように生かそうとしているのだろう。</p> <p>2. 課題に対して予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言い伝えや記録を残し、防波堤や家を建てる場所を工夫している。 ・防災グッズや防災食を用意したり、避難訓練を大事にしたりしている。 <p>3. 個人追究する。(一人で考える場)</p> <p>4. 全体交流することで、自分と仲間の考えを比較して考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【「自助や共助」の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家具の転倒・落下防止の備え ・防災グッズ（非常用品）の備え ・危険箇所や避難場所の確認 ・災害時の行動についての話し合い ・地域の避難訓練への参加 <p>⇔災害への備えと、非常災害時の行動についての共通理解</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【「公助」の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の出来事や記録をもとにした自治体や消防、警察や自衛隊の取組 ・復興計画やハザードマップの作成 ・法令や条例、危機管理マニュアルの改正 <p>⇔災害に強い町づくりと、住民の防災意識を高める取り組み</p> </div> </div> <p>過去の教訓を生かして「自助」・「共助」・「公助」に取り組むことで、人々の対話や協力を大事にしながら住民の命を守ろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題の工夫について ・災害の後につくられた石碑や言い伝え等を具体的に提示することで、さらなる興味や関心を高める。 ◆資料①「自然災害伝承碑」 ◆資料②Eテレ「明日をまもるナビ（115）」（宮古市の石碑等）を視聴する ●「個別最適な学び」の工夫 ◆自然災害伝承碑（国土地理院データや自治体資料）や「津波でんでんこ」等の言い伝え、ハザードマップ等、各自が教科書や書籍、SNS等で調べる。 ●「協働的な学び」の工夫 ・各自が調べたことを交流し、共通点や相違点について考える。 ・「視点」を明らかにして、考えを広げ深める。
深 め る ま と め る	<p>5. 東日本大震災の教訓を伝えるのに、岩手県大槌町では、なぜ「石碑」ではなく耐久性の低い「木碑」を作ったのだろう？</p> <p>【自分たちで命を守り、生活や地域をつくっていく】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あえて朽ち果てていく「木碑」を設置することで、自分たちの手で4年に1度設置し直すことで言い伝えを確認し、過去の教訓を風化させないようにして住民の命を守り続けようとしているんだ。 <p>⇔自分たちも非常用品や危険箇所の確認など、日頃からの備えをしなければ。</p> <p>6. 学習を振り返り、考えをまとめる。</p> <p>東北地方の取組のように、過去に起きた災害や取組について詳しく知り、教訓を忘れないように受け継いでいくことが、自分や周りの人の命を守ることにつながるんだ。しかし、想定外のことも起こりうるから、まずは自分が日頃からの備えを大事にして、情報を把握したり、人々で対話したりして判断・行動していくことが重要なんだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「深い学び」のための工夫 ・「発問」や「問い返し」により考えを深める ◆資料③Eテレ「明日をまもるナビ（115）」（岩手県大槌町の木碑の自然災害伝承碑について等）を視聴する ●「振り返りの場」の工夫 <p>【評価規準】学びに向かう力・人間性等（+思・判・表） 防災や減災のために、被災地でどのような取り組みが行われているかを調べ、自分たちが何をすべきかを考え、行動しようとするすることができる。</p> <p>【評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート等の記録 ・発言や交流の様子

令和7年度 地理分野 飛騨市立古川中学校 防災教育

第2学年「防災学習 ～第2学年東北地方(岩手県大槌町)の学習を通して～」

1. 実践の概要

(1)目的

被災地固有の伝承モニュメントに着目した防災教育プログラムを実践する。単なる知識の伝達に留まらず、生徒たちが「なぜその形で伝承されているのか」という問いを通じて主体的に思考し、未来の防災行動への意識を高めることを目的とする。

(2)対象・日付

古川中学校 第2学年生徒(137名)

A組…10月31日(金) B組…10月30日(木) C組…10月29日(水) D組…10月29日(水)

2. 授業実践

(1)ねらい

東日本大震災の経験を後世に伝えるために、地域の方があえて壊れやすい「木碑」を用いている背景や思いを考察する。この学習を通して、震災の記憶を後世に継承するためには、人々の「二度と繰り返してはならない」という強い意思と、その意思に付随する具体的な行動が不可欠であることに気付くことができる。



(2)授業の様子

大槌町には「木碑」が設置されている現状を紹介し、「なぜ石ではなく、わざわざ腐食しやすく壊れやすい木材が使われているのか？」という問いを設定した。生徒たちは、「なぜ木なんだ?」「風化させないってどういうこと?」と木碑に関して疑問を持っている様子だった。また、仲間と交流する中で建て替えという行動をくり返すことで、震災の記憶を次の世代へ伝えていくことの重要性に気づくことができた。また、震災の記憶を後世にしっかり伝えるためには、自分たちの「二度と繰り返してはならない」という強い気持ちと、実際に行動することが欠かせない、という大切な教訓を学ぶことができた。

生徒の振り返りから

- ・「震災の教訓を後世に伝えたい、未来の災害を少なくしたい」などの災害の教訓を残す強い意志を木碑から感じる事ができた。また、自分たちのようになってほしくないから、自分たちが震災を伝えていく活動をしていることがわかった。
- ・自分たちも1年生のときに、防災の学習をしたので、自分たちもできることがあると思う。

3. 成果と課題

◎「なぜ石碑ではなく木碑なのか」という疑問を起点に、受け身ではなく主体的に学習に取り組むことができた。

▲大槌町から学んだ「行動として記憶を継承する」という教訓を、生徒たちが具体的な防災行動へと結びつけられるよう、来年度以降も継続的な学習プログラムを構築していく必要がある。

防災教育を軸とした教科横断的な学習（社会科） 神岡中実践報告

1 2年生社会科（地理的分野）東北地方 「過去の継承と未来に向けた社会づくり」 授業実践

導入

本時の中心となる「東日本大震災」についての理解を深めるため、津波の大きさや家屋が全壊している様子など当時の状況が分かる資料を提示した。災害の規模の大きさを実感させることができ、「うわっ」という生徒の反応があった。その後、「石碑とは何か」「碑文にはどのようなことが刻まれているのか」「東北地方に点在する自然災害伝承碑の位置」などを確認し、「東北地方では、過去の災害からの教訓をどのように生かしているのか」と課題を設定した。



【導入の資料】

展開

課題解決に向け、教科書、地図帳、資料集に加え、インターネット資料から読み取りを行った。生徒が読み取った事実を「自助（自分でできること）・共助（みんなで協力すること）・公助（市や国がすること）」の視点で構造的に板書したことで、過去の経験や教訓を生かしていると考えることができた。

「自助・共助・公助」でまとめた後、生徒の認識をさらに深めるために、「木碑」の資料を提示し、「石の方が、手入れが簡単なのに、なぜ、木でつくられた伝承碑を立てているのか」と投げかけた。「木の方が、文字が見やすいのではないか」「設置がしやすいのではないか」という考えが多かった。検証動画を視聴し、「いつまでも忘れないため」「入れ替えるときに思い出させるため」と教訓を未来に受け継ごうとする、人々の思いにも触れながら、考えを深めることができた。



【グループ交流の様子】



【動画を視聴している時の様子】

終末 【生徒のまとめ】

- ・東北地方では、津波の経験から教訓として伝える工夫がされているのだと分かりました。標高の高いところに住んだ方が安全だけど、漁業をしている人や思い出がある人にとっては引っ越すことは簡単ではないんだろうなと思いました。「津波てんでんこ」などの言葉も、伝統になっているんだと思いました。実際にあった被害を忘れないようにしたいし、もしも大きな災害があったときのために、日ごろから防災意識を高めたいと思いました。

2 成果と課題

○震災当時の写真を提示することで、当時の様子を想起させ、課題意識をもたせることができた。

○映像資料を視聴したことで、自分たちの考えをより確かなものにすることができた。

▲教科書や資料集のみでは情報が不足し、生徒にとって読み取りが難しい場面が見受けられた。そのため、インターネット資料を精選して活用することで、生徒の学びがより一層深まると考える。

総合的な学習・総合的な探究・その他行事など

古川小学校

古川小学校 防災学習の実践 「避難所設営訓練」(1・2・3年生)

日時 令和7年11月7日(金)2校時
 場所 1~3年生の各教室(7クラス)
 授業者 各担任(巡回指導:防災士3名)

○ねらい

災害発生時には、命を守るために避難所に避難する場合があることを知り、自分ならどんな防災グッズを持って行くか考えることを通して、災害時の自助の心構えを養う。(児童の回答は否定せず、選んだ理由を大切にす。また、他の児童との違いも尊重し、仲間の意見から気付くことも大切にす。)※児童の持ち物…色鉛筆かクレヨン、鉛筆、消しゴム

時間	学習活動(○発問等 ・児童の反応)	■キーワード、資料、授業の様子、児童の感想
9:30	○地震が起きたり、たくさん雨が降ったりして、自分の家にいると危ない時、行く場所を知っていますか? ・避難所(具体的には、学校、公民館など) ○避難所に行くとき、「ひなんリュック」に必要なものを入れて持っていくといいです。どんな物を持っていきたいですか?「ワークシート」の絵から5つだけ選びましょう。 ・災害発生時には、できるだけ荷物は少なく、移動しやすく、両手を使えるリュックがよい。	■「避難所」 ■「避難リュック」 ■ワークシート ■自助
9:35	課題:避難するときに、持っていく物を考えよう。	 
9:40	○避難所に持っていく物を、「ワークシート」から選んで、色を塗りましょう。色を塗った人は、理由も書きましょう。	
9:55	○どんな物を持って行くか、そのわけをペア(その後グループ)で交流しましょう。 ・ライトを持って行きます。わけは、暗くなったら明るくできるからです。 ・おかしを持って行きます。わけは、お腹が空いたら食べられるからです。 ・遊ぶ物を持って行きます。わけは、避難所で遊べるからです。	
10:00	○ペアやグループで話したことを全体に発表しましょう。	
10:03	○NHK for schoolの「ひなん所での行動」(10分間)を見ます。実際の避難所の様子や、避難所での生活について知りましょう。見終わったら、感想を交流します。 ○感想を発表しましょう(残り時間をみて、ペアやグループ、全体で交流)。 ・避難所に行ったとき、健康でいるために体を動かすとよいことが分かったので、避難したらやってみたいです。 ・避難所に行って、また地震が起こるかもしれないと怖くなったら、家族に話して、気持ちを楽にするといいいことが分かりました。 ・避難所では、助け合って生活することが大切だと知りました。 ○今日学んだ避難のときに自分で何かする事を「自助」と言います。	
10:13	○今日学んだこと(自助について)を、家に帰ってから、お家の人にも	
10:15	話しましょう。	

児童の感想

- ・本当に地震が起きたら怖いと思いました。地震が起きる前に、避難リュックを準備しようと思いました。
- ・避難した時に、もしご飯がなかったらお腹が空くので、食べ物を持って行きたいと思いました。
- ・避難所には、人がたくさんいるので、ちゃんとルールを守って生活しようと思いました。
- ・動画を見て、避難所でもリラックスできる体操を知ることができました。やってみたら気持ちよかったです。

古川小学校 防災学習の実践 「避難所設営訓練」(4・5・6年生)

日時 令和7年11月7日(金)3校時
 場所 体育館
 講師 防災士3名

○ねらい

災害発生時には、避難所に様々な設備が設置されることを知り、避難所で自分にどんなことができるかを考えることを通して、災害時の共助の心構えを養う。

※児童の持ち物・・・探検バック、ワークシート(各クラスで事前に配布)、鉛筆、消しゴム

時間	学習活動(○発問等・児童の活動等)	授業の様子、児童の感想
10:35	○講師紹介	
10:36	○避難所〇×クイズを3、4問行う。→避難所での過ごし方を知る。	
10:39	○地震などの災害発生時には、学校にも避難所が開設されます。 そこには避難生活に必要な設備や物資があります。 防災備蓄コンテナの中身の物品をホワイトボードに貼る。 ・マンホールトイレ、備蓄食料、ダンボールベット、エアベッド、防災テントの説明を聞く。	
(4分)		
10:43	・その後、展示してある物を近くで見学する。(10分間)	
10:53	○NHK for schoolの「避難所でどう過ごす?」(10分間)を見て、避難した時に自分たちにできることを考えましょう。	
11:03	課題:自分たちは、避難所でどんなことができるだろう。	
11:06	○ワークシートにイラスト入りの選択肢を与え、その中から選び、更にその内容を発展させてできることやしたいことを考える。 ○動画を見たり、考えたりして、避難所で自分にできそうなことを書きましょう。書いた後に、グループや全体で交流します。 ・運動不足にならないように、家族や周りに人達と体操をする。 ・食べ物や飲み物を運んだり、配ったりを手伝う。 ・避難してきた人にトイレなどの位置を教える。 ・小さい子が退屈そうにしていたら、声をかけて一緒に遊ぶ。 ・掃除を手伝う。	
11:13	○書いたことをグループで交流しましょう。 ○全体で交流します。手を挙げてください。 ○避難所について質問がある人は手を挙げてください。 ○今日学んだ避難のときに、お互いに助け合う事を「共助」と言います。	
(6分)		
11:19	○今日学んだことを、家に帰ってから、お家の人にも話しましょう。(共助について、家でも話せるようにする。)	
11:20		

児童の感想





- ・避難所になる古川小学校に、ダンボールベットや防災テント(プライベートルーム)があって安心しました。
- ・もし学校が避難所になった時には、避難してきた人にトイレの場所を教えるなど自分にできることをしたいです。
- ・この授業を通して、避難所では、何でも大人に任せるのではなく、自分たちにできることはしたいと思いました。
- ・これから災害が起きてあせらず、今日学んだことを生かして避難所で落ち着いて過ごしたいと思いました。

古川西小学校

古川西小学校 防災授業の実践

11月12日(火) 総合 6年 (5,6時間目)

- ねらい
- 自分が住んでいる地域にはどんな災害の危険があるのかハザードマップを見ながら考えたり話し合ったりして、どんな備えが必要なのか自分事として考えることができる。
 - 古川西小学校の敷地内にある防災倉庫を見学したり、説明を受けたりして、自分たちの通っている学校が災害時には避難所となり、人々の役に立つことがわかる。

過程	学習活動	◇準備・児童の様子
導入	<ul style="list-style-type: none"> 防災士の方から、防災士会の説明を聞き、今日の学習について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛騨市の過去の災害の写真 実績浸水深の看板の写真 ハザードマップ
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>① 飛騨市の特性を知り、災害が起きた時に、どんな行動をする とよいのか考えよう。</p> <p>② 防災倉庫見学を通して、災害が起きた時に必要な物について 考えよう。</p> </div> <p>◎過去の飛騨市西小校下の災害写真を見て、飛騨市ではどんな災害が起きているのかを知り、自分事としてとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実績浸水深の看板の写真を見て、過去の災害で実際にどこまで水が浸水したのかイメージを持つ。 身を守る方法を知る。 ハザードマップの見方について説明を聞く。 <p>◎地域ごとのグループに分かれて、ハザードマップを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自宅の位置を確認し、ハザードマップに●印をつける。 一時避難所、指定避難所を確認して▲印をつける。 防災士のアドバイスを受けながら、避難所までの避難経路を考える。 近くの危険箇所を確認する。 <p>◎防災備蓄について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭にどんな防災備蓄があるのか書き出す。 実際に必要なものはどんなものなのか考える。 3日間生活できるような必要最低限のものを準備する。 いつでも災害は起きるものと考えて、普段から準備しておくことの重要性を理解する。 <p>◎防災倉庫の見学をする。</p>	  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分の家はここだよ。 避難所までは、どうやって行くと安全かな？</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>防災倉庫の中には、こんなにたくさんの方が入っているんだな。</p> </div>
まとめ	<p>◎今日、学んだことの感想を交流しあう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の家は、ハザードマップの中では、黄色い色の地区にあったので、いつ災害が起きてもいいように準備をしておく必要があることがわかった。 避難所に逃げるときにも、黄色や赤色の場所を通過していくことになるので、逃げるルートを考えなければならないと思った。 災害は、いつ来るかわからないから早めに準備しようと思った。避難経路を家族で確認しようと思った。ハザードマップをもう一度家族で見て、どこが危険いか、どこに避難するかを確認しようと思った。 防災士さんの話を聞いて、避難するときに持っていくリュックはできるだけ軽くしたほうがよいと聞いたので、軽くなるように準備したいと思った。 家で防災備蓄について確認したいと思った。 </div>	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>プライベートを守るテントも防災倉庫にあるんだな。</p> </div>

飛騨市立河合小学校 防災教育 実践報告

「防災 DAY キャンプ」

1, 目的：河合地域は、山と川に囲まれた地域であり、過去には大きな水害の被害にあっている。どのような準備や行動をすることが危険を回避し、自分や家族の命を守ることになるかを考えることを通して、防災への関心・意欲を高め、実践力を養う。

2, 参加者：河合小学校児童、保護者、教職員、市役所危機管理課の方、
飛騨市防災士会河合支部のみなさん、飛騨市子育て委員会の皆さん

3, 内容

①防災授業 市役所危機管理課より

河合で起こりうる自然災害に備え、どのような行動をとることが危険を回避することになるか、減災につながるかを学ぶ。

②我が家の避難持ち出し袋を確認しよう 防災士より

それぞれの家庭の避難持ち出し袋を見せ合い、どのようなものを準備しておくといいか、あると便利なものなどを交流し、実際に役立つ避難袋にしていく。

③お菓子袋で防災バッグをつくろう 防災士より

子どもたちが好きな駄菓子とビニール袋を使って、避難するときに使う防災バッグを作る。

4, 学習の様子（学習のふりかえりから）

過去の水害から学ぶ

「スマホで情報を見ると、洪水の時にどこが危ないか分かることが分かった。」（3年児童）

備えのアップデートと交流の価値（保護者）

「頭の中でイメージして防災バッグを用意したものの、出席者の持ち出し袋を確認して、災害発生時に必要なものが不足していることを感じた。」（2年）「交流することで、わが家で準備しているものとそうでないものが明らかになり、考えの幅が広がった。」（2年）

防災意識の転換（保護者）

「これまで具体的に親子で話し合ったことがなかったので、これを機会に具体的に話そうと思いました。『いつ避難』ではなく『いつまでに避難完了』という意識に変えていくことが一番心に残りました。」（6年）「危機管理課の方の話から、準備していても実際に使えるようにしておかないといざというとき避難が遅れるということを知り、確かに使えなかったら荷物になるだけだよなあと思いました。今度の休日に親子で中身を確認しようと思います。」（4年）



親子や家族、地域での具体的な話し合い（保護者）

「想像力を高め、家族や周囲の方といくつものパターンで助かる道を話していきたいと思った」（4年）「息子もハザードマップに興味を示していたので、家庭で確認したいと思います」（3年）「定期的に防災についてみんなで考えることはとても重要だと思いました。」（3年）「地域の若い方が少なくなってきたので、何かあったら助け合おうということ親子で話しました。」（6年）

5, まとめ

過去の被害の様子を知るだけでなく、実際に、いつ、どう行動したらいいのか、具体的に考えたり、他の家庭と交流したりすることで、子どもたちは「自分も行動しなければ」「自分は何ができるだろうか」という意識が高まった。親子で自身の防災意識と家庭の備えを見直し、具体的な行動につなげる機会となった。

令和7年度 防災に関する授業（宮川小学校）

協力：宮川町防災士会




1 日時 令和7年12月8日（月）5・6時間目 （地域学校協働活動）

- 2 ねらい ①避難所になった学校で自分たち小学生ができることを考える
 ②自分たちが学校に預けている「避難グッズ」を確認する
 ③学校が避難所になった時のための学校の備えを知る
 ④防災時の食事について考える

- 3 設定
- ・大雨で河川が増水し、学校に繋がる上下線の道路が通行止めとなる。
 - ・学校周辺地域（林地区）の住民に避難指示が出され、地域の方々が学校体育館に避難してきた。
 - ・児童は、下校バスが運行できないために学校に留まることになる。
 - ・電気、ガス、水道などのライフラインは今のところ正常に使用できる。

4 参加者 宮川町防災士5名
 児童 6名 （当日は3名欠席）

4 当日の流れ

時間	内容	担当
13:10～ 5 限目 ・避難所設営運営について説明	<p>○本時の設定を知る</p> <p>◎児童は、どんなことが必要になってくるか予想する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの経験を生かして自分なりの考えをもつ <p>○避難所設営に関するお話を聞く（担当のプレゼン紹介）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなふうに避難所が設営されるのか <p>○自分たちの備えについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学校備蓄について（どんなものを備えているか開けて確認する） <p>○防災倉庫の中には何が蓄えてあるのかを知る</p>  <p>◎避難所が設営されたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなこと、どんなものが必要になってくるか考える ・何が必要か ・倉庫のものをどう生かしていくか 	<p>担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本寺のねらい、設定の説明、課題提示 ・避難所の設営までを写真などで紹介する ・自分たちの備蓄品を持ってこよう促し中身を確認する <p>防災士 防災倉庫の中身、避難所設営についての説明</p> <p>担当 必要になるものについて児童に考えるよう促す</p> <p>防災士 防災食のつくり方、給仕の工夫、コミュニティの場を確保する</p>
14:05～ ・非常食について調理の仕方を学ぶ ・給仕の仕方を考える	<p>◎食事について実際に関わっていることをとおして、どんな関わり方ができるか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災食を教えていただきながら作る。 α米4種（混ぜご飯・白米・お茶味米カレーピラフ） 切り干し大根&ツナ&野菜ジュース、バナナ&きな粉 ・食器の有効活用のためのラップの使い方 ・ランチルームを活用した避難所の喫食 ・自分たちが関われることについて考えを交流する ・実際に喫食する ・ランチルームの活用で気づいたことを発表する 	

5 児童の感想より

1年女児：私の箱にトイレットペーパーがなかったのでもってこればよかったなあと思いました。
(トイレになくなった時に使えるから)

3年男児：今日は、ぼくのは寝袋しか入っていなかったので、ちゃんと食べ物とかを入れたいと思います。しかも今日は、バナナやご飯を食べれたのでうれしかったです。家に帰ったら準備したいと思います。

3年女児：今日は、防災倉庫の場所を知って初めてあることを知ったし、防災食のドライライスに野菜ジュースを入れるのがとってもおいしかったです！物は、絆創膏などがありました。
(けがをした時につかえるから)

3年女児：避難のための準備で学校の防災倉庫を見て、最低でも3日いるんだなあと思いました。自分の防災の備えは3日分もないだろうから、次からはそういったことにも気をつけていきたいと思います。それに避難した時にどこに何を設置するかなども知れて良かったです。防災の備えで賞味期限が切れている食べ物があったし、救急セットのようなものもないから、そういったことも考えて次からは入れたいです。

4年男児：今日は、避難について、避難にはどんなことが大事かで、食料や、栄養、水分、その他が大事ってことがわかりました。

6年男児：今日は、学校に避難したことを考えました。プライベートルームと区画が決められていることを初めて知りました。自分の防災品もあるけど、地域の防災品もあって、ゲートボール場の近くの倉庫にあるのも初めて知りました。防災食は水やお茶でもできるそうなので、覚えていきたいです。少しきな粉などを加えるのもいいと知りました。

防災士さんより

- ・個人の備蓄品の置き場所を1階にしたらどうか。(3階だと取りに行くのに時間がかかる)
- ・「命を守る防災カード」を活用して、何かあった時のための集合場所などを家族と相談しておくこと。時間が取れたら、説明して渡してほしいとのこと。

成果と課題

○学校がどのように避難所になるのか大まかな流れをつかむことができた。

○自分が学校に備えている備蓄品を開き、不足しているもの、しっかり準備できているものについて現物を見ながら確認し、備えの必要性を再確認できた。

▲振興事務所の方にも参加していただき、学校が避難所になった時の流れを説明していただけるとよかった。(いろんな立場の方から説明を受けたり情報を共有できたりするとよい。)

▲避難所で小学生である自分がどんなことができそうかまでは、思考を深めることができなかった。本時避難所設営の流れをつかんだので、この後自分たちが避難所のためにどんなことができそうかを考えていけるとよい。

今後に向けて

◎中学生から教えてもらったことや、今回の授業、高学年は河合小学校との防災に関する交流などから学んだことを想起し、繋げて防災について深く考えられるとよいと感じた。

R7 神岡小学校 総合的な学習実践報告

神岡小学校

単元名 4年生「神岡の環境・防災」

実践内容

(1) 観音山登山

観音山登山を通して、神岡の自然に触れた。また、V字谷や河岸段丘を実際に見て神岡の地形の特徴や、起こりうる自然災害について学んだ。(NPO 法人 白川郷自然案内人協会)



(2) 砂防堰堤見学

神通川水系砂防事務所に依頼し、砂防堰堤の見学とその仕組み、また神岡で起こりえる災害について学んだ。また、土砂災害危険区域の説明の中で、家からの避難経路や避難所について確認した。

(国土交通省神通川水系砂防事務局、古川土木)



(3) 防災学習（マンホールトイレ体験等、防災倉庫見学）

飛騨市防災士会から講師を招き、2つのテーマについて学んだ。段ボールベッドを実際に使用したり、簡易トイレを組み立てたりすることで、避難所での生活を疑似体験した。また、防災倉庫を実際に開けていただき、倉庫内の見学と用途の説明をしていただいた。(飛騨市防災士会、危機管理課)



(4) 自分たちにできること

それぞれが願いをもって、下級生や家族に向けて「私の町の防災」と題してプレゼンを作成し、伝える活動を行う。「自分たちにできること」を出口とし、児童一人ひとりが「災害が起こったらどう行動するか」「未来のためにできること」の2つ視点で伝えられるようにしたい。

古川中学校 防災マイプロ実践記録

日付	学習内容	対象
6/13(金)	1年生 防災マイプロキックオフ (防災士会、Edo) ・防災マイプロの目的、概要、アウトプット(出口)の見通しをもつ。 ・過去の災害事例を基にした地域の防災意識の必要性について知る。 ・「自分らしさ」と「防災」の掛け合わせ方について見通しをもつ。	1年生
6/16(月)	第1回 大地震を想定した命を守る訓練 ・学校で大地震が起きたことを想定し、自分の命を守るための適切な行動について自分事として考える。 ・校舎内からの避難経路を知る。	全校
6/26(木)	風水害24 体験会 (地域学校協働活動推進本部、防災士会) ・災害時における時間の経過と状況の変化についてシミュレーションする。 ・警戒情報やハザードマップ・被害状況などを想定し、適切な行動について考える。	1年生
7/4(金)	Will Can Need 講座 (地域学校協働活動推進本部) ・自分の「好き」「得意」「誰かに喜ばれること」は何か見通し、探究テーマを導き、決定する。	1年生
7/8(火)	Needを深める ・Needとは地域に「求められること」「期待されていること」「地域の課題となること」であることを深く理解し、自分らしさを生かして何ができるか考える。	1年生
8/29日(金) ~9/17(水)	防災インプット&アウトプット計画 ・防災における知識をインプットする。 ・誰にどのような方法でアウトプットしていくかマイプロジェクトを見通し、計画を立てる。	1年生
9/18(木)	防災ブラッシュアップ (防災士会) ・防災マイプロの計画について防災士の方に相談し、アドバイスをいただくことで、実現性や意義について見直す。	1年生
9/26(金)	ブラッシュアップを受けての再計画 ・防災士の方からいただいたアドバイスをもとにマイプロを練り直す。	1年生
10月 総合的な学習の授業	防災マイプロインプット&アウトプット準備 ・図書やインターネットなどを用いて防災についての知識をインプットする。 ・蓄えた知識をどのように地域に伝えるか考え、必要な事物を制作・準備する。	1年生
10/29(水) ~10/31(金)	防災授業(社会) ・被災地固有の伝承モニュメントに着目した防災教育。	2年生
11月 総合的な学習の授業	防災マイプロアウトプット準備 ・目的意識、相手意識をもち、防災マイプロアウトプットの準備を進める。	1年生
11/15(土)	避難所運営訓練 (市役所危機管理課、防災士会、南吉城調理師会、柏木工、折長段ボール、飛騨食品衛生協会南吉城支部、避難所・避難生活学会) ・中高生と防災士が協力し、専門家の指導・助言を受けながら実践的な訓練を行う。	1年生 2年生 (一部)

	<p>・災害関連死を防ぐための生活環境改善について学び、実践する。</p> 	
11/18(火)	<p>第2回 火災発生を想定した命を守る訓練</p> <p>・学校で火災が起きたことを想定し、自分の命を守るための適切な行動について考え、行動することができる。</p>	全校
12/8(月) 12/12(金) 12/15(月)	<p>小学校防災マイプロアウトプット (河合小、宮川小、古川小、古川西小)</p> <p>・防災について学んでまとめたことを、相手意識・目的意識をもって発信する。</p> 	1年生
12/16(火)	<p>保育園・高齢者利用施設防災マイプロアウトプット (アイラス、さくら保育園、増島保育園)</p> <p>・防災について学んでまとめたことを、相手意識・目的意識をもって発信する。</p> 	1年生
12/23(火)	<p>第3回 火災発生を想定した命を守る訓練</p> <p>・前回の命を守る訓練の振り返りから、他学年の避難も想定して、スムーズに避難する方法を理解し、実践する。</p>	全校
1月中旬	<p>防災マイプロアウトプット (市役所・観光協会・飛騨市図書館・古川動物病院)</p> <p>・防災について学んできたことを、パンフレットや絵本、ポスターにまとめ、地域住民や観光客に発信する。</p> 	1年生
2/5(木)	<p>授業参観 防災マイプロアウトプット (保護者)</p> <p>・防災について学び、まとめたことを相手意識・目的意識をもって保護者に伝える。</p>	1年生
2月上旬	<p>シェイクアウト訓練</p> <p>・シェイクアウト訓練を通して、地震発生時の身の守り方について理解する。</p>	1年生
3月上旬	<p>防災マイプロまとめ</p> <p>・1年間の防災マイプロをまとめ、お世話になった方へお礼を伝える。</p>	1年生

2 成果と課題

- 1年生防災マイプロの取組では、インプットの中で、風水害24や防災士の方とのブラッシュアップを通して正しく知識をインプットすることができた。また、図書やインターネット、防災士の方からのアドバイスをもとにして、災害時における自助・公助・共助について正しく理解を深めることができた。また、防災士の方から助言いただいたことをもとに、相手意識と目的意識をもって地域の様々な方に対して表現豊かに伝えたりすることができた。
- 避難所運営訓練では、中学生として何が出来るかを考え、自分から率先して動くことができた。また、中学生に何が求められるかを考え、「ポジティブメッセージ」を作って掲示し、地域の方を勇気づけることができた。
- △1年生「防災マイプロ」と年間の中で計画的に行っている「命を守る訓練」を往還的に指導していくことで、より深い知識理解や防災意識につながる。また、防災マイプロジェクトの一環として、1年生が主体となって、全校の「命を守る訓練」を企画し、運営していくことで、訓練に受け身でなく、自分事として取り組めると考えられる。

防災教育を軸とした教科横断的な学習（行事・総合・他教科）神岡中実践報告

1 総合的な学習の時間での実践

【神岡中学校防災学習のねらい】

- ・状況に応じて適切な行動を自分で判断し、安全に避難することができる。
- ・地域の一員として他者の安全確保に主体的に関わることができる。
- ・日頃から自らの身を守る判断力をもつことができる。
- ・地域の一員であることを自覚し、災害が起こった際の影響を想像し地域の安全を守るために何ができるかを考えることができる。
- ・自然災害の歴史や発生する仕組みについて理解し、適切な準備をすることができる。

【1年生】

- ・防災教室 …・飛騨市内および神岡町内で起こり得る自然災害や、避難所（神岡中学校体育館）での避難生活について学び、防災意識を高める。
 - ・災害発生時にスタッフの一員として行動できるよう、避難所設営に必要な知識や技術を身に付ける。
- ・防災基礎講座…防災の基礎知識を正しく習得し、地域の一員として神岡町での自助・共助・公助について考える。
- ・風水害24 …災害シミュレーションゲームを通して、災害時の自助・共助を学ぶ。

【2年生】

- ・社会科における防災教室 …東日本大震災で被災された方のお話や事例から、自身の防災意識を高める。

【全校】

- ・避難所設営シミュレーション…神岡中学校を避難所として開設する際に、避難所設営を主導できる知識を身に付ける。また、ただ場所を開放するだけではなく心理的な安心感を抱かせることも必要であることを知る。

2 活動の様子



【1年生防災教室】



【避難所設営シミュレーション】




学校安全総合支援事業(総合的な学習の時間)

- 1 実施日 令和7年7月11日(金) 13:20~15:00(5、6時間目)
- 2 参加者 小中学生、保護者、校区民の希望者、危機管理課職員、柏木工株式会社スタッフ
- 3 講師 防災士 神岡支部:2名 補助員:3名

4 ねらい

- ・ 市の『学校安全総合支援事業 ①地域と連携した生徒参画による「避難所設営」』を受け、山之村地区で発生し得る自然災害及び、避難所となる山之村小中学校体育館内での避難生活について学ぶことを通して防災意識を高め、自分事として自覚をもつ。また、災害発生時には、スタッフの一員として行動できるよう、避難所設営の知識・技術を身に付ける。

5 活動の流れ

児童生徒の活動		
<p>1 第1部：防災授業(15分×2)</p> <p>(1) 地域で起こりうる自然災害の種類について</p> <p>(2) その際の行動について</p> <p>(3) 避難場所での生活実態について</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に、防災倉庫の中身を確認し、会場にテント、ベッドを展示する。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時には、だれもがスタッフの一員として行動ができるように、設営や運営の知識と技能を学ぶことができるようにする。 ・ 避難バッグの中に入れておくべき物について、実物を見ながら理解する。 ・ 災害時には、「自分にできることを考えて、自分から行動することが大切」であることを理解する。
<p>2 第2部：避難所設営訓練</p> <p>(1) 防災用パネル組み立て</p> <p>(2) 防災倉庫内の用具の確認</p> <p>(3) 非常食の試食</p>		
<p>3 意見交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「本時の学習を通して学んだこと、感じたこと、新たな疑問」について参加者で7グループに分かれて意見交流する。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケガをしている人がいるかもしれない。その人たちのために、食事を運んであげることができると思う。 ・ お年寄りがたくさんいると思うから、少しでも元気になってもらえるよう声をかけてあげることができそう。 		

6 児童生徒の感想

- ・ 災害が起きた時に、自分にできることを考えて行動することが大切だと分かった。災害に備えるということでは、私は自分の住んでいる地域のハザードマップを見たことがなかったので、見てみたいと思った。

7 事後の取組

- ・ 授業後の事後指導として、家庭のハザードマップを確認した。災害はいつ起こるか分からないもの。まずは、家族で避難場所や連絡方法等の確認することの意識を高めた。日常生活や、教科横断的につなげて考えることを通して、学習した内容を防災についての更なる意識化を図った。

令和7年度 岐阜県立吉城高等学校 防災実施報告書

1 目標

自分や大切な人そして地域の方々の命を守るための思考力、判断力、表現力を身につけ、災害時には自ら考え、適切な行動ができる高校生をめざす。

2 主な取組の報告

(1) 異なる危険を想定した「命を守る訓練」の実施（全職員および全校生徒が参加）

令和7年 7月 2日	地震	予告ありのシェイクアウト訓練
令和7年 9月 3日	火災	全校一斉による避難行動の実施
令和7年10月17日	地震	予告なしのシェイクアウト訓練
令和7年11月14日	土砂災害	予告ありの全校一斉直上避難訓練

(2) マンホールトイレ設置訓練 6月20日（金）16：00～17：00

（2年生 防災リーダーおよび防災係の15名参加）

飛騨市役所危機管理課の職員の方からマンホールトイレの仕組みについてお話を伺った後、ご指導を受けながらハートピア古川駐車場にある災害用マンホールで実際にマンホールトイレの組み立てを行った。昨年度の「防災タウンウォッチング」で災害用のマンホール用の存在を知り、興味を持ち、実際に組み立ててみたいという思いが実現した形となった。組み立て後は実際に中に入り一人ずつ便器に座ってみた。実際に体験してみないとわからないことがあり、今回の「マンホールトイレ設置訓練」は、災害時のトイレ問題を考えるきっかけになった。最後に近くに設置されている飛騨市の災害時備蓄品コンテナの内部も見せていただき、よい勉強になった。



(3) 「防災士資格取得」の啓発活動（説明会）7月11日（金）昼休み

飛騨市では毎年「防災リーダー養成講座」を3日間実施し、最終的には防災士の資格取得を奨励している。昨年度本校では5名が防災士に合格している。今年度は、10名以上の合格者を目指して説明会を実施した。説明会には20名ほどの生徒が参加してくれたが、結果としては現在1年生5名、2年生3名が「防災リーダー養成講座」を受講し、12月の試験に向けて勉強中である。

(4) 防災講座（防災リーダーおよび防災係対象）9月12日（金）15：45～17：30

（2年生 防災リーダーおよび防災係の15名参加）

飛騨市役所の「市制見える化講座」の制度を利用して危機管理課の職員の方から「防災講座」を実施して頂いた。危機管理課の業務、想定災害とハザードマップ、災害への備え、TKB、防災士の役割、日本の防災の実態など多岐にわたって説明を受けることができた。特に災害時におけるTKB（トイレ、キッチン、ベッド）の備えが世界に比べて（例 イタリア）いかに遅れているかのお話には驚くこととなった。災害関連死を防ぐという視点を新たに持つことができた。



(5) 「防災タウンウォッチング」9月28日（日）9：00～12：00

（2年生 防災リーダーおよび防災係の4名参加）



毎年参加している飛騨市防災士会主催（飛騨市および飛騨市教育委員会後援）「防災タウンウォッチング」に今年度も参加した。「まちを舞台に見つける！考える！やってみる！」を合言葉に毎年飛騨市内の異なる地区をフィールドとワークするが、今年は飛騨市谷総合研修センターを拠点とし、古川西小学校エリアを探索した。地区の防災担当の方と共に防災士の方の指導を受けながらまちの中を歩き、もしもの時に気をつけたい場所を確認しながら自分の命を守るヒントを学んだ。特に今回は、平成16年の台風第23号で浸水や土砂災害を被った場所のフィールドワークとなったため「実績浸水深」の表示などを見つけながら驚きをもって当時の様子を学び、防災について理解を深めることにつながった。



(6) 2年生合同 LHR「防災について考えよう」11月5日(水)6時間目
(2年生 防災リーダーおよび防災系の20名が企画・運営)

①趣旨説明

②「防災について考えよう」概要説明および防災クイズの実施
防災について今年度の取組を発表するとともに防災のポイントの説明
およびクイズ形式で知識の確認をした。

③災害図上訓練(DIG)の実施

居住地区ごとに22グループ(1グループ4名程度)に分かれ、吉城
高校周辺のハザードマップを確認し、白地図に色分けする。その後、
危険個所を確認し、避難場所までの経路を考える。
また、いくつかの災害状況を想定し、グループ内での意見交換を行っ
た。その後全体でグループの感想を発表した。



(7) 令和7年度 学校総合支援事業「避難所運営訓練」11月15日(土)7:30~14:00
(2年生 防災リーダーおよび防災系の5名参加*当初9名参加予定であったがインフルエンザ
罹患等で5名の参加となった)



11月10日(月)の放課後に危機管理課の職員
の方から事前説明を受け、当日各グループ(中学生
および防災士の方)のリーダーとして活躍すること
となった。当日は、古川中学校1年生全員、協力防
災士、地元住民、飛騨市職員の方々と協力し、「マ
ンホールトイレ・災害用排便処理袋設置訓練」「避
難所設営(休息スペース)・避難所運営演習」「適温
でおいしく栄養バランスのとれた炊き出し料理・配
膳演習」に参加した。実際に段ボールベットをグル
ープで組み立てたり、避難してきた住民を受け入れ
たり実践的な学びができた。また、防災の専門家
の方の講義も受けることができ、有意義な時間であ
った。



3 連携した組織など

飛騨市消防署 飛騨市役所 飛騨市防災士会 古川中学校

4 減災力テスト

回	平均点	実施学年
1	52.3点	2年生
2	55.7点	2年生

5 成果と課題

防災リーダーや防災系の生徒は、様々な活動を通して防災に対する知識を得ることができた。また、実践的な学びが多かったため、万が一の時には自ら考え、地域の方々に多少は貢献できるのではないかと期待される。今年度の活動を蓄積し、来年度も改善しながら継続していきたい。

令和7年度防災に関する取組について

岐阜県立飛騨神岡高等学校

○命を守る訓練

【第1回訓練(地震・火災)】

(1) 目的

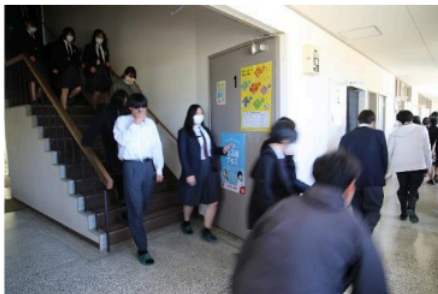
地震・火災発生時に、命を守るための適切な判断力と行動力を身につける。

(2) 実施日

令和7年5月8日(木) 13:55~14:55

(3) 内容

- ①火災発生により避難 第2避難場所の体育館に避難
- ②状況を確認 クラスの代表が人数を確認し担任へ、担任から本部へ報告
- ③救命救急講習



【第2回訓練(地震)(抜き打ち実施)】

(1) 目的

命を守るための適切な判断力と行動力を身に着ける。
救助袋を利用した避難方法について学ぶ。

(2) 実施日

令和7年10月28日(火) 12:15~12:45

(3) 内容

- ①緊急地震速報 シェイクアウトの実施
- ②地震発生による避難 校舎前とグラウンドの間の芝生植え込み周辺
- ③避難袋を利用した演習(代表生徒)



【青雲寮訓練】

(1) 目的

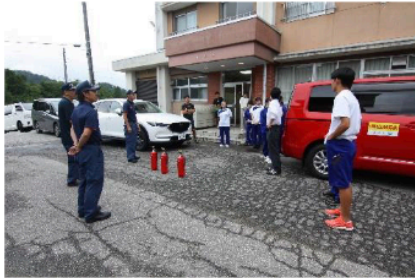
地震・火災の非常時に生命・身体を守るための判断力、行動力を養う。

(2) 実施日

令和7年7月18日(木) 16:30~17:30

(3) 内容

- ①地震発生 シェイクアウト訓練
- ②火災発生 ボイラー室より出火 裏庭への避難
- ③消防署員による指導と講評
- ④消火訓練



【第3回訓練(予定)】

(1) 目的

地震発生時に命を守るための適切な判断力と行動力を身につける。

(2) 実施日

令和8年2月

(3) 内容

- ①緊急地震速報 シェイクアウトの実施
- ②放送による避難指示 第2避難場所の体育館に避難
- ③状況を確認 クラスの代表がクラスの数を確認し担任に報告

○実習

【避難所運営訓練への参加】

(1) 目的

若い世代の育成や世代を越えた学び合いを通じて、地域防災力を強化する。

(2) 実施日

令和7年11月15日(土)

(3) 実施場所

飛騨市立古川中学校

(4) 内容

T(トイレ)K(キッチン)B(ベッド)について、座学と体験を通して、災害時の避難所の運営や地域防災力の向上を図る。



防災の取組について

岐阜県立飛驒吉城特別支援学校

1 命を守る訓練（年3回）

- 第1回（4月）火災を想定 火災報知器が鳴った後、グラウンドに避難
第2回（9月）地震を想定 緊急地震速報の後、一時避難場所から二次避難場所へ移動する訓練として、古川小学校へ避難 ※今回、初めての試み



第3回（2月）冬季の非常時を想定して実施する予定

2 シェイクアウト訓練

Jアラート（緊急地震速報や弾道ミサイル情報）を聞き、「ダンゴムシのポーズ」で机の下に入って身を守る訓練を行った。いろいろな状況の中でも落ち着いて対応できるように、時間帯を変えて実施。（担任以外の授業や昼休み、掃除の時間等）繰り返し訓練することで、低学年の児童も身を守る姿勢がスムーズにとれるようになっている。



3 引き渡し訓練（4月）

災害時に児童生徒を確実に保護者に引き渡すための訓練を行った。

【実施方法】

- 1 PTA総会終了後、保護者に敷地外に出してもらう。（公営駐車場待機）
- 2 「すぐーる」で引き渡しの依頼を配信する。
- 3 学校に戻ってきた保護者に児童生徒を引き渡す。
- 4 保護者から帰宅確認の連絡を入れてもらう。

4 非常食の確認

倉庫に児童生徒各自の非常食を3日分常備しており、学期ごとに保存期限の確認をしている。
部や学年によって、非常食を試食し、変災時に実際に食べられるかどうかを確認している。

5 授業における防災教育（主に生活単元学習）

小・中学部 ・NHK for school を利用して動画を視聴（自分の身の守り方など）

高等部 ・学校や自宅以外で地震等が起きたときの行動について考える

・車いすの生徒は、ベルカ（救護用担架）を利用した避難方法を体験



6 PTA防災委員会の取組

・防災委員会のメンバーが、校内に保管している防災備蓄用品の確認を行った。

（使用方法、期限、管理状態の確認）



・1/30に飛騨市危機管理課の方をお願いしてPTA防災研修会を実施する予定

（内容：変災時の避難所体験）

さくら保育園

令和7年度 命を守る指導 園だよりにて

保育園では、月1回の避難訓練と様々な命を守る行事を行っています。その都度園だよりにて保護者の方にお知らせをしています。

☆4/14(月) バスのクラクションをならす練習をしました。 ☆4/16(水) 避難訓練をしました。

【大切な命を守ります】

先日うさぎ組さんが、バスのクラクションをならす練習をしました。数年前のニュースで報道された事故を受けて、二度とこのような痛ましい事故が起きないように、毎年行っています。「バスでひとりになってしまった時には、クラクションをならして助けてもらいましょう」と担任より話を聞いてひとりひとり押しました。子どもの力では難しく力いっぱい押しなないとなかなか鳴りません。子ども達は真剣な様子で取り組んでいました。



毎月一回「避難訓練」を行っています。今月は【非常ベルの音を聞き、非常ベルの意味を知る】という訓練をしました。初めて聞く音にビックリして泣いてしまう園児もいましたが、さすが年長組さんは、ベルを聞いて机の下に隠れて、放送をしっかりと聞く事ができました。



☆6/2(月) 交通安全指導日 「雨の日の歩き方と傘の使い方について」

以上児全員が遊戯室に集まって指導を受けました。実際の傘を用いて、危険な歩き方と上手な歩き方を実際に見せ、子ども達と一緒に考えながら行いました。後日実際に雨が降った日には学年毎ではありましたが、傘をさして園庭を歩いて体験しました。

1・軒下で人がいない 2・皆で上手に歩きます 3・傘を閉じます 4・縛ります

方向に向け傘を開きます。

しょうがくせいみたい



☆6/6(金) 不審者対応訓練

年1回職員も真剣な顔で臨む訓練です。今回は園庭で子ども達が遊んでいる所に「不審な人発見！」から訓練が始まりました。すぐに子ども達を安全な場所に避難させ、不審者に対応し、警察署の方が到着するまでさすまた等で応戦…子ども達の命を守るため職員も真剣に取り組みました。子ども達はDVDとおまわりさんからの大切なお話をきいて「知らない人にはついていかない」事等を学びました。



(さすまたで不審者を取り押さえる事が出来ました)

(不審者とは距離をとると良いと、指導を受けました)

職員が不審者との応戦中子ども達は、安全な場所に速やかに避難していました。

(大きい声を出して助けを求める事を練習しました。)



たすけてえ!
いやや!



DVD も真剣に見ました。

☆6/9(月) 避難訓練

(暴風雨警報を想定し、雨具を着てさくらの郷 5 階に通じる入り口を確認する。)

高い所に避難して命を守る訓練のため、今回は入り口の確認をしました。ベルの音と放送を聞いた後、カバンから合羽を出し、自分で着て避難しました。未満児さんは、避難カートに乗り、頭の上辺りに雨除けカバーを被せ(もちろん呼吸確保しています)避難をしました。以上見全員合羽の持参があり無事避難できました。(10/8 実際に垂直避難の訓練を実施)

☆6/30(月) 古川西小学校と合同で引き渡し訓練をしました。

「災害非常時、又は不審者による事件等に備え、園児を安全かつ確実に引き受け者に引き渡せる方法を小学校と連携し、保育園と保護者が確認する。」を目的として毎年行っています。お仕事でお忙しい中、保護者の方がご都合を合わせ、ご協力くださりありがとうございました。訓練が無事行えたこと感謝申し上げます。13:30 のメール配信後最初のお迎えが 13:31 でした。引き渡し完了が14:30 でほぼ 1 時間かかる事がわかりました。訓練を繰り返すことで、実際(ない事を祈りますが)起きた時に、職員も落ち着いて行動し、安全かつ敏速に引き渡せられ、園児の安全を確保できるという確信が持てる事にも繋がる大切な訓練です。今後も続けていきたいと思えます。

☆9/1(月) 防災の日に避難訓練をしました。

9/1 は防災の日であることから、園でも避難訓練をしました。地震想定での放送が入り子ども達は皆机の下に隠れます。その後放送の指示に従って防災頭巾をかぶって園庭に避難しダンゴムシのポーズになっていると、園舎が火事になり古川西小学校まで避難をしました。

その際子ども達は、



をしっかり守っていました。

毎月の繰り返し行う訓練の大切さを感じました。その日の給食は防災食で、火は使わず、温かくないご飯に温かくないカレーでした。いつもの温かい給食、平穏な日常のありがたさをしみじみ感じられた1日でした。

※振り返り

*園児の避難する様子から、訓練時はいつも「お・は・し・も」の約束を守り、又火災の訓練時はハンカチで口を覆っている園児がいるなど、繰り返しの大切さを感じる。

*災害別のマニュアルがあるため、全職員が把握しスムーズに訓練が行えた。

*避難訓練後職員会で反省を含め振り返る事で、課題や変更事項が話し合えるため良い。

『今年度変更した部分』*未満児の避難経路に安全性が懸念されたため変更する。

*遊戯室に待機した時はすぐに外に出られるように、掃き出し窓付近で避難出来る体制とする。

*避難持ち出しグッズも看護師が毎回実際に持ち出していた方が、緊急時慌てることなく対応できるのではないのか…毎月持ち出すように変更する。

令和7年度避難訓練実施内容

月日	計 画	内 容	子どもの様子・反省
4/17	非常ベルを聞く	・非常ベルを鳴らし、園児にベルの意味を知らせる。	・ベルの音を通常時より長く鳴らす。未満児は泣く事なく聞く事が出来た。以上児はベルの音に素早く反応して机の下で身を守り、放送の話をしっかり聞けた。 ・今後は様々な想定で行うため丁寧に伝え指導する。
5/14	火災発生（一斉保育中） 遊戯室避難 「お・は・し・も」の指導	・非常ベルを聞き、放送の指示に従い、遊戯室に避難し、「お・は・し・も」の指導をする。	・近隣の家の火災を想定ベルの音で非常時と感じ、放送の指示に従い遊戯室に避難する。避難をする際口を手で覆っている園児もいた。今年度初めて避難したため「お・は・し・も」の約束をする。園児は保育士の話に頷いたり、答えたりと良い反応をみせていた。
6/9	暴風雨警報（一斉保育中）	・雨具を着てあさぎり5階に通じる入り口を確認する。	・放送の指示に従い、自分で合羽を着て避難する。未満児は避難車にカバーを被せ雨から園児を守った。合羽常時カバンに入れてあるが、着る事は初めてであったため、避難するまでに時間がかかった。スムーズに着られるように、練習が必要である。
7/23	地震発生(午睡中)	・ベル音で目を覚まし、布団を被り身を守る。 各クラスで指導する。	・午睡中の訓練を行う。ベルの音で起きて自分のお昼寝布団を被って身を守った。どの学年もベルの音のみで全員が起きる事が出来ず、担任の声掛けが必要だった。驚いて泣く園児はいなかった。午睡中にも災害が起きる事がある事を再度指導した
8/25	火災発生（一斉保育中） 第一避難所【さくらの郷】	・裸足保育期間中、裸足のまま上靴を履いて園庭に避難し、クラスごとに並び、第一避難所に避難する。	・裸足保育期間のため、上靴をロッカーより出して履き、園庭に避難する。その後命の危険が懸念されると想定しさくらの郷に避難する。「お・は・し・も」の指導を再度行う。保育園が火事という設定で園庭に避難する事は危険ではないかと反省をし、来年度はさくらの郷へすぐ避難をする訓練とする。
9/1	地震・火災発生（防災の日） 第二避難所 【古西小グラウンド】 ※ 防災の日に実施する	・防災頭巾を被り、上履きのままクラスごとに園庭に避難する。その後火災が発生し、第二避難所に避難する。クラスごとに並び。【古西小グラウンド】	・防災の日に合わせて訓練をする。上靴のまま外に出る事を躊躇する事なく行えた。西小学校まで距離はあるが、お話しせず静かに移動できた。 ・給食は災害時を想定して、火を使わなくても良い防災食とした。
10/6	通報訓練・防災訓練 (飛騨消防署による指導)	・通報訓練ののち防災訓練を合わせて実施し、話を聞いたり、映像による指導を受ける。煙体験や、消防車両の見学をする。	・火災を想定した防災訓練を行った。実際に消防署に通報したため職員も訓練ともなった。女性消防団の方の紙芝居やDVD、講話、煙体験や消防車や救急車を見たり、実際に乗れ子ども達は、命を守る事について、楽しく学ぶ事が出来た。年長組は消防隊のお洋服も着れ満足そうだった。
10/8	暴風雨警報（一斉保育中） 遊戯室からあさぎり	・放送の指示に従い、遊戯室に避難し、その後、あさぎりに避難をする。クラスごとに並び。	・大雨が降った場合の訓練をした。保育園に居ては危険と判断し、垂直避難をした場合の経路と手順を実際行って確認をした。玄関で靴の脱ぐだけでもバタついたりした事など検討課題が見つかったため職員会で話し合っ今後活かす。
11/12	地震発生（自由保育中） 午後実施・停電時を想定	・停電時にはベルが鳴らないので、鐘の音で異常を知らせる。上靴のまま園庭又は遊戯室に避難する。クラスごとに並び。	・危険を知らせる手段がいつものようにベルではなく鐘であったり、放送ではなく拡声器ではあったが、緊張感の中で防災頭巾をかぶり遊戯室に避難をする事が出来た。給食室の職員も午後という事もあり全員が参加出来た事で、危険な事や自分たちの避難経路、又給食室前の廊下にある下膳カートの位置や状態等今後の検討課題が見つかり良かった。

※ ベルが鳴ったら机の下にもぐり、放送の指示に従う

☆ 園長…ベル鳴らす・全体指示 ☆ 主任…園内最終確認 ☆ 担任…クラス全体把握